



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ： ガザで初使用された地対空ミサイル

10月16日、イスラエルのハアレツ紙は、イスラエル軍が、前週、ガザで同軍のヘリコプターに対して地対空ミサイル（SA-7 Strela）が発射されたことを確認したと報道した。ヘリに被害はなかった。イスラエルとの衝突を続けているパレスチナの武装勢力が、イスラエル軍のヘリに対して地対空ミサイルを使用したのは、初めてである。同紙は、8月にイスラエル・エジプト国境で武装勢力とイスラエル軍が戦闘になった際も、地対空ミサイルが使用されていたとした。17日、イスラエル戦略省幹部は、ガザで使用された地対空ミサイルについては、リビアの武器がガザに持ちこまれたものだとし、今回ミサイルが発射されたことは、ガザに十分な地対空ミサイルがあることを意味するとした。

2011年にリビア内戦が激化した際、リビアが保有していた武器の管理が問題視された。2011年10月3日のAFPは、リビア国民評議会の軍事部門幹部の発言を引用して、カッザーフィー政権が旧ソ連などから購入し保有していた2万発の携行式地対空ミサイルSA-7のうち、約5000発が行方不明になっていると報道している。10月31日には、国連安保理が、リビア当局に対し、カッザーフィー政権時代の携帯式地対空ミサイルなどが過激派の手にわたるのを阻止するよう求める決議案を全会一致で採択している。同決議案は、ロシア主導で作成され、ミサイルを含む全武器の流出に深刻な懸念を表明し、リビア当局に「（流出阻止に向け）あらゆる必要な措置」を講じるよう求めている。同決議に関連して独国のシュピーゲル誌は、NATO高官が独国連邦議員に対し、リビアが保有していた約1万発の地対空ミサイルが行方不明になったと述べたと報道している。12月11日には、米務省のシャピーロ政治・軍事担当次官補が、訪問先のリビアで、内戦の混乱で行方が分からなくなっていた携行式地対空ミサイル等5000発を回収し、解体等の処分を行ったと述べたと報道されている。

2012年5月28日、テルアビブ大学で講演したシナイ半島に駐留する多国籍軍（MF0）の司令官は、MF0が直面する問題は、武器の密輸であるとし、2004年にリビアに売却された地対空ミサイルSA-24がエジプト経由でガザに密輸されたと述べていた。

評価

イスラエルは、今回のミサイル発射について驚くより、すでにあつた疑いが確認されたという受け取り方をしたようだ。イスラエル軍は、すでに地対空ミサイルに対する対抗措置を取っていたと報道されている。今のところ、パレスチナ側のどの組織が地対空ミサイルを発射したかは不明である。今後、地対空ミサイルの使用回数が増加する場合、イスラエル軍は、ガザに対して新たな対応を取るかもしれない。

（中島主席研究員）